



題字 井原田 親

No. 963

2021/12/15



発行所
日本中国友好協会
〒111-0953
東京都台東区浅草橋2-1-3
浅草橋5-5 5階
電話 03-5830-2140(FU)
FAX 03-5830-2141
http://www.jcfk.org.jp
E-mail: nchukayama@nicchukayama.co.jp
発行 00119-1-2117

日中友好協会
岡山支部
〒709-0034
岡山市北区下伊福
西町1-58 民生会館1F
TEL: FAX 0861-250-1800

日中友好協会
倉敷支部
〒713-8031
倉敷市福成町東2-461-45
TEL: FAX 0861-411-7800

日中友好協会岡山支部ホームページ
http://rizhongyouhao.inaa.net/
メールアドレス
nicchukayama@yahoo.co.jp



第2回新支部結成の打ち合わせ会

新支部の名称を井笠支部（仮称）としてはどうか

2021年12月3日の金曜日に、標記の会が井原市出部（いずえ）公民館で開かれました。

当日10人が参加しました。岡山支部から河井理事長、小林事務局長、私の3人、倉敷支部から宇野理事長、犬飼理事の2人、鳥越さん（井原市）、木尾さん（美星町）、佐藤さん（里庄町議）、冲原さん（浅口市議）、三好さん（笠岡市）の10人でした。

前回の話に続き、自由に発言していただきました。今の中国政府に親近感はないが、一般市民との交友は大事にしたいという意見が出されました。

また、内山完造だけでなく、森近運平（大逆事件で死刑となった）の故郷（井原市高屋）でもあるという話も出てきました。

来年をめぐりに、何かイベントを企画しましょうという話も出ました。太極拳が盛んな地域なので、練習会などもやれるといいし、福山から教えに来てくれる人を紹介できるという話もしました。



そして、井原だけでは範囲がせまい感じがするし、笠岡も入っていることを伝えるためにも井笠のほうが良いのでは、という意見に対して全員が共感しました。

次回は2022年1月28日の金曜日に、同じ出部公民館で開くことを決めました。

真田

第10回中国百科検定が岡山会場で実施されました

2021年11月27日土曜日、午後3時から標記の検定が実施されました。会場は岡山国際交流センターです。

当日受験者は9人でした。申し込みは10人でしたが、一人欠席されました。

監督は竹内理事と補佐に犬飼（倉敷支部理事）さんが協力してくださいました。

予定通り始まり、40分を過ぎたところお一人が解答用紙を出して退出されました。私も受験者でしたので、自信があるのだなと感心しました。

時刻通り終了した後、皆さんに呼びかけて受験者懇談会を開きました。今回は可愛いチラシが入っていたので、どなたが作ったのか尋ねると、本部からの輸送品に入っていたということ、驚きました。

懇談会に参加してくださいましたのは、7人でした。以下がその内容です。

- 増補版から多く出題されていた。
- 次回には余裕で通ると思う。
- 通るまでチャレンジする。
- 地理の特級には、テッポウ

トドキもしなかったが、歴史は何とかなる。

○近代史はなじみやすい。

○自分の生きてきた時代のことだから。

○頭の中が白くなった。久しぶりに勉強して疲れた。

○難しかった。あまり勉強しなかったから。

○15分ほどで、できていて、その後退出した人がある。広島から来た人よう。

○撃沈しました。次回は何とかかなるでしょう。

○日中のホームページから問題はダウンロードできる。

○質問の仕方が変わってきているので、戸惑った。

○漢字の間違い、カタカナの間違いなどが0.5点ですめばよいのだが。

○問題の作り方に工夫がみえる。

○漢字の読みは日本語と中国語読みが併記されていた。

○増補版を補強しなければ。

○公式テキストもそろそろ改訂版を出したほうがよいのでは。

○8回の特級は難しかったが、今回はやさしかった。

○漢字を書く練習をした。

百科検定の感想

11月27日、中国百科検定2級を受験しました。これで2回目です。

勉強時間は十分あったはずですが、結局、直前に詰め込みになってしまいました。後日、公式サイトより解答がUPされたので、自己採点してみました。見事撃沈でした。

前回よりは正答数は多いのが救いでした。自己採点してみると、分野別の得意不得意がはっきりと出ました。

文化∨政治経済∨地理∨歴史となり、歴史の得点が取れなかったことが最大の敗因でした。

結果としては残念でしたが、今回の受験とそれに至る過程で得た教訓もあります。

1、過去問はとても大事

過去問からの出題もありました。また似たような問題を知っていることで回答の助けになることも。過去の解答のキーワードを覚えるだけでも効果あり。

2、分野はまんべんなく勉強

4分野からの出題で、各分野大体15問。1分野でも大きく得点を落とすと痛い。

再び2級に挑戦したいと思います。

田中栄子

百科検定の感想

11月27日は第10回中国百科検定の日だった。わたしは特級の地理を受験した。3・2・1級と特級の歴史・文化と今まで受けてきたが、いつも直近二週間で詰め込んでいたので、ギリギリの点数で合格してきた。

しかし今回は違った。一カ月以上前から、省名省都や省の略称や世界遺産を勉強した。省名省都や省の略称は完璧に詰め込んだ。日本の都道府県を全部言うこともできないのに。

直前で過去問を解いてみると、間違っているのはだいたい民族や宗教に関するところだったから、その頻出問題だけ、さらに詰め込んだ。

そうやって挑んだ第10回中国百科検定特級地理のできればは……なんと！満点の可能性があるのである！！

自己採点してみたら満点、なので、結果通知が届くまではもしかしたら誤字などで点数を引かれてることもありえるのだけれども……。

小川涼子



「対中感情が悪化する中での

日中友好運動の意義と展望」を語る 3

日中友好協会倉敷支部 宇野忠義

詳しくは、論じられませんが、古来より「衣帯水」の隣国であり、2000年以上に亘る交流の歴史の中で、途中、戦前の15年にわたる日本の中国侵略をへて、1945年の敗戦。連合国軍統治を経て、1952年のサンフランシスコ講和条約と同時に日米安全保障条約の秘密裏の締結。サンフランシスコ体制による「終戦」。その下で、1972年に日中国交回復がなされ、78年に平和友好条約締結。

和友好条約締結。

1947年に平和憲法が公布されま

置かれ、従来の政権は、なにことも日米同盟重視で判断し、米国に従属したかのような状態が継続しています。外交においても、米中対立が激化するとその影響を強く受けるという国際関係の下にあります。日本の自立した外交・国際関係の樹立がなしえないという状態が大問題です。北朝鮮やロシアとの「終戦」、戦後処理、平和条約が締結されないという問題も根源がここにあります。

このようなことをも踏まえた「歴史認識」は重い、簡単ではない問題ですが、歴史の事実・真実に向き合い、戦前・戦中・戦後史を見直し、正しく理解するように努めていかねばなりません。

中国の対日感情について、最も大きな影響を与えているのは、第2回の世論調査に見られるように、中国を侵略

した事実についてきちんと謝罪し反省していかないから」が74%に達していることを重視しなければなりません。(2020年)

三、このことに関しても、講演では貴重な経験が報告されました。

1 中間法律事務所訪日団の協会本部訪問と交流

2020年、中国・北京で活動する中間法律事務所訪日団(弁護士11人)が日中友好協会本部を表敬訪問し、矢崎光晴事務局長、澁谷廣和不再戦平和委員、酒井達夫事務局員と懇談しました。

訪日団は、政府や政党から独立した協会の国民レベルの運動と、歴史に逆行する動きを強める安倍政権のもとで侵略戦争の事実を明らかにしている不再戦平和活動を高く評価。現在は日本中で活動しており、この表敬訪問を仲介した劉湧弁護士からは後日、訪日団の中には平素の宣伝によって日本に対して偏見を持っている人もいましたが、訪問の後、日本に対する見方は改めて見直す必要があると思う、と心境を打ち明けてくれました」との嬉しい報告が届きました。矢崎事務局長は「中国の人權状況には日本でも多くの国民が強い懸念を抱いています。中国の日々の生活のなかで人權をはじめとする様々な問題に取り組み、一歩ずつ改善をはかっている弁護士の人たちの努力があることを知りました。中国の発展は中国の国民自らの努力によって成し遂げられるもの」との思いを強くしました。あら

ためて、今回の懇談のような、相互理解を深める国民一人一人の交流が大事であり、幅広い国民を対象にした草の根の活動を進める協会の役割が大きいことを再確認しました」と述べています。

2 訪日団団長の帰国後の挨拶状にも、日中友好協会の歴史と事業のご説明を聞かせていただき、一行は感動しました。特に、日中不再戦という言葉はとても感銘でした。訪日団の中に、平素の宣伝によって日本に対して偏見を持っている人もいましたが、あの訪問の後、日本に対する見方は改めて見直す必要があると思うと、心境を打ち明けてくれました。

そうです。政党と国家と国民を分けて認識することは大切なことだと考えられますね。中日友好とは、スローガンではなくて、社会生活のすべてのところに及ぼしているものと存じます。日中友好協会はとても貴重な存在だと存じます。」と記されていることが紹介されました。

このような相互の交流、率直な意見交換を通じて得られた理解と認識をつぎのようにまとめて示しました。

① 2004年に中国の憲法に明記された「人權」

② 働く人の権利を損ねていた「戸籍制度」の改革

③ 経済発展に比べて遅れていた「人權を守る」ことに力を注いでいく決意

④ 不再戦平和運動と自主的な運動への理解

⑤ 日本に対して抱いていた偏見の瓦解

⑥ 政党や国家と国民を分けて認識することの大切さ

生み出す力は相互の友好的交流と相互の理解が出发点であり、その継続にあること。

3 「ここに改めて、日中友好の基盤は不再戦平和であり、侵略と加害の反省に立つて、国民レベルの相互の理解、交流の進展が重要であることが示されました。」

また、協会の70年にわたる運動の歴史を踏まえて、元駐中国大使・谷野作太郎さんからの協会創立70周年祝賀メッセージ(日本と中国の関係が、依然として厚い雲に覆われた状況を続けるなか、とくに民の力をもって少しでも日中関係を前に進めようと努力されている貴協会の活動は大変重要です。)が紹介されました。

講演後の意見交換では、支部の訪中活動や中国百科検定の取り組み、その重要性、核兵器禁止条約をめぐる中国の態度などが話し合われ、22名が、やや緊張の中で、日中友好の理解と認識が新たに深められ、有意義な講演会となりました。

なお、尖閣問題、香港問題、人權・民主主義の問題、米中関係などについては、研究・中国」第12号、および「研究・中国」第13号(2021.10)に専門家の論考が掲載されています。ぜひ、ご参照ください。

次回の新聞送付作業は

12月24日(金)午前10時半から
民主会館2階で行います。

前回お手伝いくださった方です。

飼井 林内井
犬河 小竹坪